

ICTと人をつなぐがん医療維新プラン

第1回 外部評価委員会

順天堂大学,島根大学,鳥取大学,岩手医科大学,東京理科大学,明治薬科大学,立教大学

評価	評価の基準
5	十分な成果をあげており、今の努力を継続すればよい。
4	かなりの成果をあげており、今の努力を継続すればよい。
3	一応の成果は認められるが、改善の余地がある。
2	十分な成果をあげているとは認めがたく、いっそうの努力が望まれる。
1	見るべき成果に乏しく、大幅な改善が望まれる。

(外部評価委員による評価)

平成25.10.25 外部評価委員会 実施

達成目標	評価指標	評価委員	評価	平均点	講評
ICTを活用し連携を深める	<定量的評価> ・7大学運営連絡会(年6回以上開催) ・e-learningを活用(共通科目11科目作成) ・ICTを活用し、双方向の授業を開催(共通科目年4回開催) ・共同授業カンファレンス開催(年5回以上) <定性的評価> ・広域に渡る連携大学間の交流促進 ・双方向授業、共同授業カンファレンスによる遠隔地の教員・学生の情報共有・連携強化	委員A	5	4.7	地域が首都圏と山陰、東北と分散している不利な条件を克服するためにICTを活用した7大学運営連絡会が定期的にもたれ、e-learningの活用、双方向授業、共同授業が行われるなど、未来型の多地点連携モデルとして発展性が期待できる。さらに、多施設間における受講生間、学生と教員、教員間の個別的な経験交流や情報の交換など、ICTの強みを活かした多層的な連携による新たな展開が期待される。 広域にまたがる連携を特徴とする本がんプロフェッショナルの弱みから強みに変える手法だと思ふ。できていない部分については今後の実施を期待します。特に、研究コンサルティング事業に関しては、海外などではあるものだが、国内では珍しく、もっと進めて欲しいと思ふ。アウトカムとして、開催回数や参加大学数だけでなく、参加人数や参加研究室が参加学部・学部数に占める率なども出して頂ければと思ふ。 ICTが良く活用され、連携が順調に進んでいると思われまふ。ICTを恒常的に遂行することにより、またICTを通じたディスカッションを深めることにより、実際に人が動く連携がより迅速かつ深さを持って進んでいる点は、高く評価出来まふ。
		委員B	4		
		委員C	5		
循環型交流の実現をする	<定量的評価> ・連携大学間において同研究実施(5プロジェクト) ・共同授業カンファレンス開催(年5回以上) ・多職種コミュニケーション研修(合宿)毎年1回開催 ・教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの開催(年1回以上) ・連携大学間の教員循環授業を開催(年7講義以上) <定性的評価> ・臨床研究、臨床試験、国際共同臨床試験等への参加	委員A	3	4.0	教員の能力向上のためのFDや多職種コミュニケーション研修が特定の大学では積極的に取り組まれており、実績が上がっている。しかし、このような取り組みが7大学全体に共有されているとは言い難い。連携大学院の教員循環授業については、限られた教員資源の中での実施は困難が予想される。教員に過度の負担をかけないために、院生を他大学の授業に参加させたり、ICTを積極的に活用するなどの工夫が求められる。 教員循環は非常に難しいことではあるが、是非、トライをして欲しい。特に、若い頃の経験は将来を支えるものになるでしょうし、自分の大学のよいところも悪いところも気づかず、百聞は一見にしかず、是非、挑戦してほしい。 循環型交流は特に臨床現場での問題点の発掘と改善をしていくための活動として、大きな成果をあげていると思われまふ。現在培っている異なる地域間の交流に、異分野間の交流、特に研究における臨床と基礎の交流を組み合わせることにより、さらに有意義な循環型交流が実現すると思われまふ。
		委員B	4		
		委員C	5		
地域との交流・均てん化の実施	<定量的評価> ・大学病院と地域病院間での共同カンファ開催(年2回以上) ・多職種コミュニケーション研修(合宿)毎年開催 <定性的評価> ・地域医療機関での実習実績 ・地域がん登録との連携	委員A	4	4.3	山陰や東北ではそれぞれの地域において連携病院との共同カンファレンスや多職種コミュニケーション研修、市民公開講座等の取り組みが行われていることは評価できる。本プランで連携する3地域間では医療環境や大学の置かれた状況に違いはあるが、相違点と共通する課題を見極め、地域医療の均てん化に対する普遍性のあるモデルを発信することを期待する。 地域交流も進んできているようなので、今後に期待したい。特に日本海側ではこれからの地方医療のモデルとなるようなシステムづくりを目指して欲しい。 各大学が個別的に独自の取り組みで地域との連携活動を行っており、その努力は高く評価出来まふ。さらに、これらの活動への連携校からの参加が順調に行われていることも良い成果となっています。
		委員B	4		
		委員C	5		
国際化に向けた拠点センターの設置	<定量的評価> ・国際学会等での究論文発表数(年間5件以上) ・海外の先進的な研究機関等への研修派遣(年間1名以上) ・海外の先進的な大学から教員を招聘し講義を開催(年3回以上) ・海外より招聘し、国際シンポジウムを開催(年1回以上) <定性的評価> ・研究コーディネータの雇用 ・がん研究者の連携・共同研究の実施	委員A	3	3.0	国際的に活躍する医療人の育成は国としては重要な課題であるが、本プランの特色であるICTを活用した地域医療に貢献する医療人の育成を第一義的に考えると、必ずしも国際化にこだわる必要はないとも言える。本事業ランでの国際化に向けた取り組みは比較的弱いですが、まずは地域医療に貢献できる医療人と研究者の育成に重点を置き、その実績の上に国際化を目指してもよいのではないかと。 海外の教師を呼び、ICTで授業配信する、もしくは、海外の授業をICTでつなぐようなことにも挑戦しては？と思つた。経費を安くするにはどちらが良いか。費用対効果を考えて。また、研究について紹介がされていましたが、このがんプロでとりあげるテーマであるとしたら、薬学部だけではなく、他学部や他大学からの視点も盛り込むべきではないでしょうか？大学のやりたい研究をしているとしかみえず、連携の視点を盛り込んで欲しいです。期待しています。 この項目での成果の報告は希少でした。ICTシステムが整備されているので、これを積極的に活用した国際化を推進出来る多大な余地があります。評価指標に唱われている派遣、招聘、共同研究の推進等も、ITCを活用した日常的な情報共有とリンクさせることによって大きな成果が生まれると思われまふ。
		委員B	3		
		委員C	3		

(外部評価委員による評価)

平成25.10.25 外部評価委員会 実施

達成目標	評価指標	評価委員	評価	平均点	講評
がん診療への貢献・社会への情報発信をおこなう	<定量的評価> ・HP更新(月1回以上) ・一般向講演会の開催(年3回以上) ・活動報告書作成(年1回) ・ニュースレター作成(年4回) <定性的評価> ・臨床現場との連携強化	委員A	4	4.3	定期的な活動報告書の作成やニュースレターの発行やホームページの更新など、定型的な作業は滞りなく行われており、その室は高い。しかし、一般国民や医療従事者に向けた情報発信がどれだけ浸透しているのかについて点検評価することが望まれる。
		委員B	4		評価指標については肅々と取り組みれば達成できる数字なので、実行して頂きたい。また、良い取り組みをしているので、もっと社会に向けて発信をして欲しいと思います。例えば地元の新聞社にとりあげてもらおうとか。もっと地域の方にもこのプロジェクトを知っていただきたい。
		委員C	5		社会への情報発信は、十分に行われており、高く評価出来ます。社会への情報発信においては、連携活動の中でも特に教育的な活動への参加を広く呼びかけることが重要とされます。これは地域におけるがん医療の質の向上を期するうえで重要ですので、現状の継続と、可能ならば更なる拡大を期待します。
がん医療教育の充実を図る	<定量的評価> ・インテンシブコースの設置(連携大学あわせて3コース) ・e-learningを活用(共通科目11科目作成) ・ICTを活用し、双方向の授業を開催(共通科目年4回開催) ・各コースの受入目標人数(平成24年度)に対する充足率100% ・認定看護師資格取得100% <定性的評価> ・チーム医療の重要性を教育 ・実質的ながん医療人の教育 ・ファカルティ・ディベロップメント(ワークショップ)のプロダクト ・がん治療認定医の資格取得を推奨	委員A	4	4.3	e-learningの活用やICTを活用した双方向授業の開催など遠隔地連携の特徴を強みに変える取り組みがなされており、認定看護師の資格取得など教育実績は成果として蓄積されている。しかし、コース間で目標にバラツキがある。各コースの資格取得目標や研究者としての達成目標を明確にすることが望まれる。
		委員B	4		手薄な人材を自治体と協力して輩出していく試みはとても評価できます。人材育成の拠点として今後も期待したい。まだ実施されていない項目については、是非とも「大学の目標・課題」ではなく「地域医療の向上に資する・直結する課題」解決のために尽力して頂きたい。
		委員C	5		大きな成果が上がっていると思われる現状を継続することが期待されます。せっかくのプログラムですので、大学横断的な共通のコース修了認定を行う等、医療従事者や大学院生の参加へのモチベーションを高め、熱心な参加者を増やすことをさらに追究することによって、成果のインパクトが高まると思われます。
がん研究の実施基盤の設置	<定量的評価> ・連携大学間において共通研究プロトコルの作成(5プロジェクト以上) ・がんに関する研究論文発表(年間5件以上) <定性的評価> ・がん研究者の連携・共同研究の実施	委員A	3	3.3	本プランの目的の一つが基礎から臨床までを俯瞰するがん研究者・医療人の養成であるとされている。順天堂大学では25年度に開始した養成コースはインテンシブを含めて募集定員を大幅に上回る受け入れ実績を示したが、指導体制の確保が課題であると考える。東京理科大学のがんシステム創薬研究者コースはプログラム内容が高度で充実しており、平成24年度のコース開始から受け入れ実績が募集人員を上回っている。しかし、他の大学の養成コースとの連携が不明で、遊離しているように見える。交流を強化し、コース終了後に連携大学で活躍するような人材育成を期待したい。
		委員B	3		研究参加の項目でもふれましたが、大学が行いたい研究ではなく、地域課題や国の課題を、本がんプロフェッショナル参加大学で連携をして解くことを目標にこれからも取り組んで頂きたい。期待しています。
		委員C	4		それぞれの大学においてがん研究が積極的に推進され、重要かつ量的にも十分な成果が上げられて居ます。今後は、本プログラムの中から発見されたがん治療における問題点を、基礎と臨床が密に連携して遂行する「課題解決型の科学」を発展させることが、更なる成果を上げるために大いに期待されると思います。
総合評価		委員A	4	4.3	首都圏、山陰、東北という遠隔の特徴の異なる3地域でのがん医療維新プランであり、一般的には不利な条件をICTを活用したリアルタイムな連携により克服し、逆に地域の特徴と課題を共有することによって、わが国の普遍的な課題を明らかにし、遠隔地間連携のモデルを提唱できる可能性がある。現在のところ7大学のそれぞれの取組は特徴を持って実績を上げているが、プラン全体としての目標の共有化は十分とは言えない。本プログラムの意義を十分に共有して新しい地域連携による人材養成のあり方を発信していただくことを期待する。
		委員B	4		まだ実施できていない項目もありましたが、ICTというツールについては大変活用されていると思いました。課題としては、全体・この広域大学連携が成し遂げようとしている「幕末の課題は何か？維新後にできる未来像は何か？」について明確な絵があると良いと思いました(おそらく、今の項目を実施していけば達成できる未来像、絵だと思えます)。研究部門については課題が多い。まだまだ連携までには至っていないので、是非、がんプロから共同研究が生まれることを期待したい。また、そのためには人材交流が必要で、大変だとは思いますが、挑戦して頂きたいと思えます。へき地医療や教育、高齢化など、これからの日本のがん医療が抱える課題を解く標準化システムが、本がんプロから生まれることを期待しています。
		委員C	5		成果を上げるための仕組みが完成し、この仕組みの中で連携することによって具体的に何が達成出来るかというアイデアを、参加大学が共有し始めていると思えます。この点がこれまでに得られた最大の成果であると思えます。若干ですが進展の遅れている国際化と研究においても順天堂大学の強いリーダーシップで克服可能と思えます。
全項目の平均値			4.0		